

# Partner

[パートナー]

Vol.10

2023.JUN

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・外科部長・

奥田 洋一

鼠径ヘルニア治療に

腹腔鏡下手術を導入



・脳神経外科・

寺門 利継

頭を切らないで治す 脳血管内治療



KOYAMA MEMORIAL HOSPITAL

## 紹介患者様の受診方法について

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室では、他の医療機関からの紹介患者様の対応、または患者様のお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。

当院は、外来患者様が多く、待ち時間が長くなるため、紹介状持参患者様については、特に事前予約をお勧めしています。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、地域医療連携室にて事前予約をお取りします。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》

TEL.0299-85-1133 FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

## 紹介状持参患者様 予約取得フロー

医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～11:00

TEL.0299-85-1133 (地域医療連携室直通)

受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。

FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)

※FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。

・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。  
・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。  
(できる限り15分以内にご連絡します)

※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。

予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、ご案内をお願いいたします。

緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。

- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
  - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
  - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土/8:00～20:00迄) 日・祝を除く
  - ・放射線科 0299-85-1173 (画像検査科直通)\*
  - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)\*
- ※月～金/9:00～16:00、土/9:00～11:00 日・祝を除く

各科緊急連絡先

広報誌 Partner Vol.10

発行日/2023年6月20日 発行/医療法人社団善仁会小山記念病院

〒314-0030 茨城県鹿嶋市厨5-1-2 TEL 0299-85-1111(代表) <http://www.koyama-mh.or.jp/>





## ・脳神経外科・ 寺門 利継

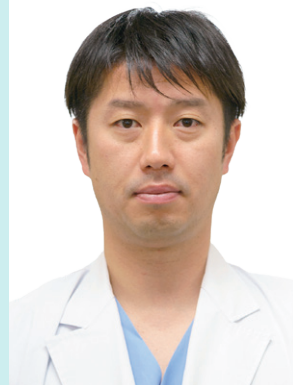
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医  
日本脳神経血管内治療学会 専門医・指導医  
日本脳卒中学会 認定脳卒中専門医  
日本頭痛学会 認定頭痛専門医  
日本医師会認定健康スポーツ医  
臨床研修指導医

ピックアップドクター

# Pick up Dr.



各診療科の医師が専門分野を伝える



## ・外科部長・ 奥田 洋一

日本外科学会 外科専門医  
日本消化器外科学会 消化器外科専門医  
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

平素より貴重な患者様をご紹介いただきありがとうございます。  
今回は、鼠径ヘルニア治療の現状と当院における手術についてお話しさせていただきます。

### 日本の手術件数は年間約15万人

厚生労働省の統計によると、日本全体で年間15万人程度の方が鼠径ヘルニアの手術を受けていると推測されます。成人の男性の患者様が多い疾患ではありますが、全体の2割程度女性の患者様がおります。皆様もご存知の通り、先天性と後天性があります。先天性の場合は出生時よりヘルニア嚢が存在するため乳児期より鼠径ヘルニアを発症します。後天性の場合は立ったり座ったりという慢性的な鼠径部への圧力に加え、加齢による腹壁の脆弱化によ

## ● 鼠径ヘルニア治療に腹腔鏡下手術を導入

て鼠径ヘルニアを発症します。おなかに力を入れる機会や立って仕事をすることの多い人に多く発症し、肥満や妊娠も誘因とされています。

### 2021年より腹腔鏡下手術を導入

鼠径ヘルニアの手術には、鼠径部を4〜5cm程度切開する鼠径部切開法と、腹腔内に内視鏡を挿入する腹腔鏡下手術の2種類があります。日本では、鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術は1991年にはじめて導入されました。その後、各分野の内視鏡手術の発展とともに鼠径ヘルニアの腹腔鏡手術も全国に広がっていき、現在では鼠径ヘルニア手術の4分の1を占めるほどとなっております。当院においても、2021年より従来の鼠径部切開法に加え腹腔鏡下

手術を導入いたしました。

腹腔鏡手術の利点としては、手術創が小さい、職場/活動復帰が早い、術後の疼痛が軽減される、創部感染や血腫等の合併症が少ないことが挙げられます。

各々の患者様に対し、より最適な術式をご提案いたしますので、ご紹介いただきますようお願いいたします。



### 急性期脳梗塞では血管内治療が主流に

これまでは脳神経外科で扱う病気は、開頭手術（頸部病変の場合は頸部を切る手術）が主流でした。しかし、医療技術の進歩により、切らずに治す脳血管内治療の割合がここ20年で増加しております。今では頸動脈狭窄に対しては手術の2倍、脳動脈瘤に対しては2022年になり開頭手術の件数を上回るようになりました。また、特に進歩したことは急性期脳梗塞に対する血管内治療です。頭の太い血管が急に詰まるタイプの脳梗塞で、かつ発症早期（遅くても24時間以内）である場合はカテーテル治療で詰まった血管を再開通させることで神経予後が改善されることが証明され、現在では主流の治療となりました。

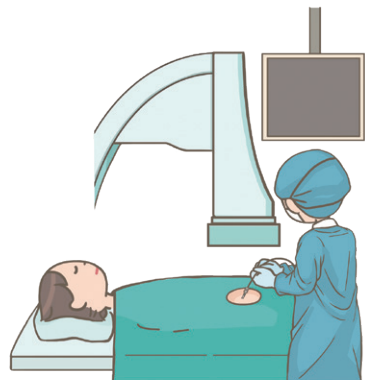
### 術後の回復も早い

脳血管内治療の利点は低侵襲であることに尽きます。頭の手術の場合どうしても頭に傷が残りますが、それが全くありません。術後の回復も早く、手術翌日には食事が取れるようになり、早ければその次の日には退院できることもあります。ほとんどの場合は1週間以内の入院ですみ、日常生活にも早期に復帰可能です。

### 多くの症例で脳血管内治療が可能に

具体的な治療法ですが、全身麻酔もしくは局所麻酔で行います。足の付け根の血管から（場合によっては手の血管から）カテーテルと呼ばれる管を挿入して、細くなった血管にステントを挿入したり、動脈瘤にコ

イルと言われる柔らかい金属を挿入したりします。治療後は、カテーテルを抜いた際にできた血管の穴を専用の器具で塞いで終了となります。術後は、経過観察、再発の有無の確認のために半年から1年に一度画像検査を行なっていく必要があります。技術的な面では、まだ治療できる医師が少なく、当院でも現状は私のみが対応しております。現在は非常に多くの症例に対して脳血管内治療が行えるようになってきておりますので、少しでも気になることがあれば気軽ににご相談ください。



## ● 頭を切らないで治す脳血管内治療